

平成 年 月 日

中国運輸局長 殿

三次市地域公共交通会議
会 長 柴 田 亮

平成 3 0 年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価の
報告について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領（平成 23 年 4 月 1 日国総計第 5 号、
国鉄財第 4 号、国鉄業第 4 号、国自旅第 20 号、国海内第 8 号、国空環第 5 号）
に基づき、平成 3 0 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価を実施した
ので、事業評価関係書類を送付します。

【問い合わせ先】

〒728-8501

広島県三次市十日市中二丁目8番1号

（担当）地域振興部 定住対策・暮らし支援課

（電話）0824-62-6129

（FAX）0824-62-6235

（E-mail）teijyu@city.miyoshi.lg.jp

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

平成 年 月 日

協議会名：三次市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域内ライダーシステム確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
備北交通株式会社 三次町循環 南畑敷町循環	三次町循環 4.6km 南畑敷町循環 10.2km 計 14.8km	市主催のイベントで時刻表等を掲載し、利用を呼び掛けた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 循環あたり利用者を7.5人以上としていたが、実績は7.1人であった。	停留所周辺の施設とタイアップして利用を促す等、さらなる利便性の向上を図る。
備北交通株式会社 赤名線	1日 4往復	関係自治体や運行事業者と協議を行い、三江線代替交通との接続を考慮したダイヤに変更した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を5.0人以上としていたが、実績は3.8人であった。	引き続き、ニーズの掘り起こしを行う。また、関係自治体や運行事業者と協議を行い、接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行う。
備北交通株式会社 下高野線① 下高野線②	下高野線① 1日 3往復 下高野線② 1日 1往復	関係自治体や運行事業者と協議を行い、利用実態に応じて路線の再編の行った(H30.10.1から系統及び時刻を変更)。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ①1便あたりの利用者を4.0人以上としていたが、実績は4.3人であった。 ②1便あたりの利用者を3.5人以上としていたが、実績は3.8人であった。	再編後の利用状況を観察するとともに、沿線地域の住民（地域内交通検討会）の意見も聞きながら、利便性向上と利用促進を図る。
備北交通株式会社 作木線① 作木線②	作木線① 1日 3往復 作木線② 1日 2往復	—	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A ①1便あたりの利用者を4.0人以上としていたが、実績は6.6人であった。 ②1便あたりの利用者を3.0人以上としていたが、実績は4.7人であった。	利用状況を観察するとともに、沿線自治体や運行事業者と連携しながら、必要に応じてダイヤ調整等により利便性向上を図る。
有限会社君田交通 川の駅三次線	1日 5往復	—	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者を3.0人以上としていたが、実績は1.6人であった。	利用状況を観察するとともに、作木町内生活交通検討会や運行事業者と連携しながら、必要に応じてダイヤ調整等により利便性向上を図る。
NPO法人元気むらさき 作木町上地区 作木町中地区 作木町下地区	各地区週2回	作木町内生活交通検討会や運行事主体とで協議を行い、運行日数を増やすなど再編を行った。また、乗り方教室を実施し、利用促進に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 一月あたりの利用者を38人以上としていたが、実績は36.4人であった。	他の交通手段への乗換等、作木町内生活交通検討会や運行事業者と連携しつつ、利便性の向上及び利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名：	三次市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	三次市は広島県北部の山間地域に位置し、面積は778.14km²で広島県の約9.2%を占めており、人口は平成30年12月1日現在で52,583人となっている。 近年では人口減少・高齢化が進展しており、平成27年の高齢化率は35.0%、また15歳未満の年少人口比率は12.5%となっている。こうした状況の中、誰にとっても安心して暮らせる地域づくりのためには、来訪者を含めた、誰もが安心して移動することができると地域公共交通システムの構築が必要不可欠である。その一環として、中でも、公共交通の主たる利用目的である通勤・通学、通院、買い物物の利用を促進するため、病院や高校など市中心部への移動手段を確保し、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統（デマンド型・路線型）を組み合わせることで、生活交通網の構築を進めているところである。

平成30年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

三次市地域公共交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

別添2



三次市の概要

- ・平成16年4月に1市4町3村が合併
- ・人口 53,615人(平成27年度国勢調査)
- ・面積 778.14km²

三次市地域公共交通会議の構成員

- 三次市 広島県 中国運輸局 三次警察署 学識経験者
- 住民又は利用者の代表 私鉄中国地方労組備北支部
- 備北交通(株) (有)君田交通 三次みどりタクシー(株)

概要

三次市は平成16年に旧三次市と双三郡、甲奴郡甲奴町が合併し広域な市となり、広域移動を中心として主要拠点間の移動を路線バスが担っている。しかし、急速な少子高齢化の進展や人口減少、マイカー利用を前提とした生活スタイルの定着等により、公共交通の利用は減少傾向にあり、その維持確保が困難な状況が生じている。一方で、合併による生活圏域の広域化等により市民の移動ニーズは多様化しており、こうしたニーズに対応した効果的・効率的な公共交通サービスの提供が必要である。持続可能な地域内交通を確保維持する取組として、市街地を循環するバス「くるるん」、区域運行の公共交通空白地有償運送「さくぎニコニコ便」を実施している。また広域移動として、赤名線、下高野線の運行を実施しているほか、平成30年4月からは、三江線代替交通である作木線と川の駅三次線の運行を実施している。

協議会の主な取り組み

- ・市街地循環便の整備
- ・地域内生活交通の再編
- ・路線バスの再編
- ・三次市民タクシー制度の改善
- ・車両バリアフリー化
- ・公共交通の利用促進策の推進(バスの乗り方教室等)
- 等網計画達成状況の評価・改善
- ・公共交通空白地域における有償運送の運営補助

協議会における検討

交通会議の開催状況 3回開催

- ・第1回(6月22日) 平成31-33年度フィーダー系統確保維持計画
川の駅三次線の通学定期運賃設定を協議
- ・第2回(8月22日) 平成31-33年度フィーダー系統確保維持計画の
変更(系統再編)を協議
- ・第3回(12月21日) フィーダー系統確保維持計画事業評価を協議

定量的な目標・効果

- 市街地循環バスくるん：（目標）1循環あたり7.5人以上（目標の根拠 H28.4～H29.3の利用者平均7.3人）
（効果）市街地での通院や買い物等の移動支援
- 赤名線：（目標）1便あたりの利用者数を5.0人以上（目標の根拠 H28.4～H29.3の利用者平均4.5人）
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進
- 下高野線：（目標）1便あたりの利用者数を下高野線①を4.0人以上②を3.5人以上とする。
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進
- 作木線：（目標）1便あたりの利用者数を作木線①を4.0人以上②を3.0人以上とする。
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進
- 川の駅三次線：（目標）1便あたりの利用者数を3.0人以上
（効果）三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進
- さくぎニコニコ便：（目標）1月あたりの利用者数を38人以上（目標の根拠 H28.4～H29.3の利用者平均37.2人）
（効果）三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動 支援

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- 市街地循環バスくるん
市主催のイベントで時刻表等を掲載し、利用を呼び掛けた。
- 赤名線 系統の再編及びダイヤの変更を実施した。
- 下高野線 住民アンケートや運行事業者との協議を実施した。
- さくぎニコニコ便
市民バスとの棲み分けなどについて、運行主体と協議を行った。

実施した利用促進策

- ・市主催イベントで、チラシやポスター等に時刻表の掲載を行い、利用を呼びかけた。
- ・運行事業者の協力により、バスの乗り方教室を実施した。
- ・沿線市町及び運行事業者の協力のより、三江線沿線バスマップを作成した。
- ・バスを利用した観光モデルコースを作成した。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・持続可能な交通ネットワーク形成に向け、運行実績をもとに運行内容の見直しを行った。
- ・引き続きバスへの関心を高める取り組みを行った。

地域住民の意見の反映

- ・各地域の住民自治組織単位で生活交通について協議を行い、ニーズや現状の把握による運行内容の見直しや利用促進を進めていくことを目的にした、地域内生活交通検討会の設立を随時行っている。
（平成30年11月現在、5か所で設立済み）

事業実施の適切性

すべての路線(区域)において、運行事業者並びに関係団体協力のもと、計画どおり事業は適切に実施された。

目標・効果達成状況

- 市街地循環バスくるん：(目標) 1循環あたり7.1人で、目標7.5人以上を下回った。
(効果) 市街地での通院や買い物等の移動手段を確保維持することができた。
- 赤名線：(目標) 1便当たりの利用者数3.8人で、目標5.0人以上を下回った。
(効果) 三次市中心部への移動支援、通勤・通学、通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 下高野線：(目標) 1便当たりの利用者数は下高野線①は4.3人、②は3.8人で、①②ともに目標を達成した。
(効果) 三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 作木線：(目標) 1便当たりの利用者数は作木線①は6.6人、②は4.7人で、①②ともに目標を達成した。
(効果) 三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- 川の駅三次線：(目標) 1便当たりの利用者数は1.6人で、目標3.0人以上を下回った。
(効果) 三次市中心部への移動支援、通勤・通学・通院、買い物等の利用促進を図ることができた。
- さくぎニコニコ便：(目標) 1月あたりの利用者数が36.4人で、目標の38人以上を下回った。
(効果) 三次市中心部へ移動する際の接続向上、外出機会の提供、医療機関等への移動支援を確保できた。

事業の今後の改善点

- 市街地循環バスくるん：停留所周辺の施設とタイアップして利用を促す等、さらなる利便性の向上を図る。
- 赤名線：ニーズの掘り起こしを行うとともに、関係自治体や運行事業者と協議を行い、接続路線との乗り継ぎを考慮しながら、ダイヤ改正の検討を行う。
- 下高野線：一部路線や時刻の変更を行ったことにより利用が徐々に伸びている。沿線地域の住民（地域内交通検討会）の意見も聞きながら、利便性向上と利用促進を図る。
- 作木線：沿線自治体や運行事業者と連携しながら、必要に応じてダイヤ調整等により利便性向上を図る。
- 川の駅三次線：作木町内生活交通検討会や運行事業者と連携しながら、必要に応じてダイヤ調整等により利便性向上を図る。
- さくぎニコニコ便：他の交通手段への乗換等、作木町内生活交通検討会や運行事業者と連携しつつ、利便性の向上及び利用促進を図る。

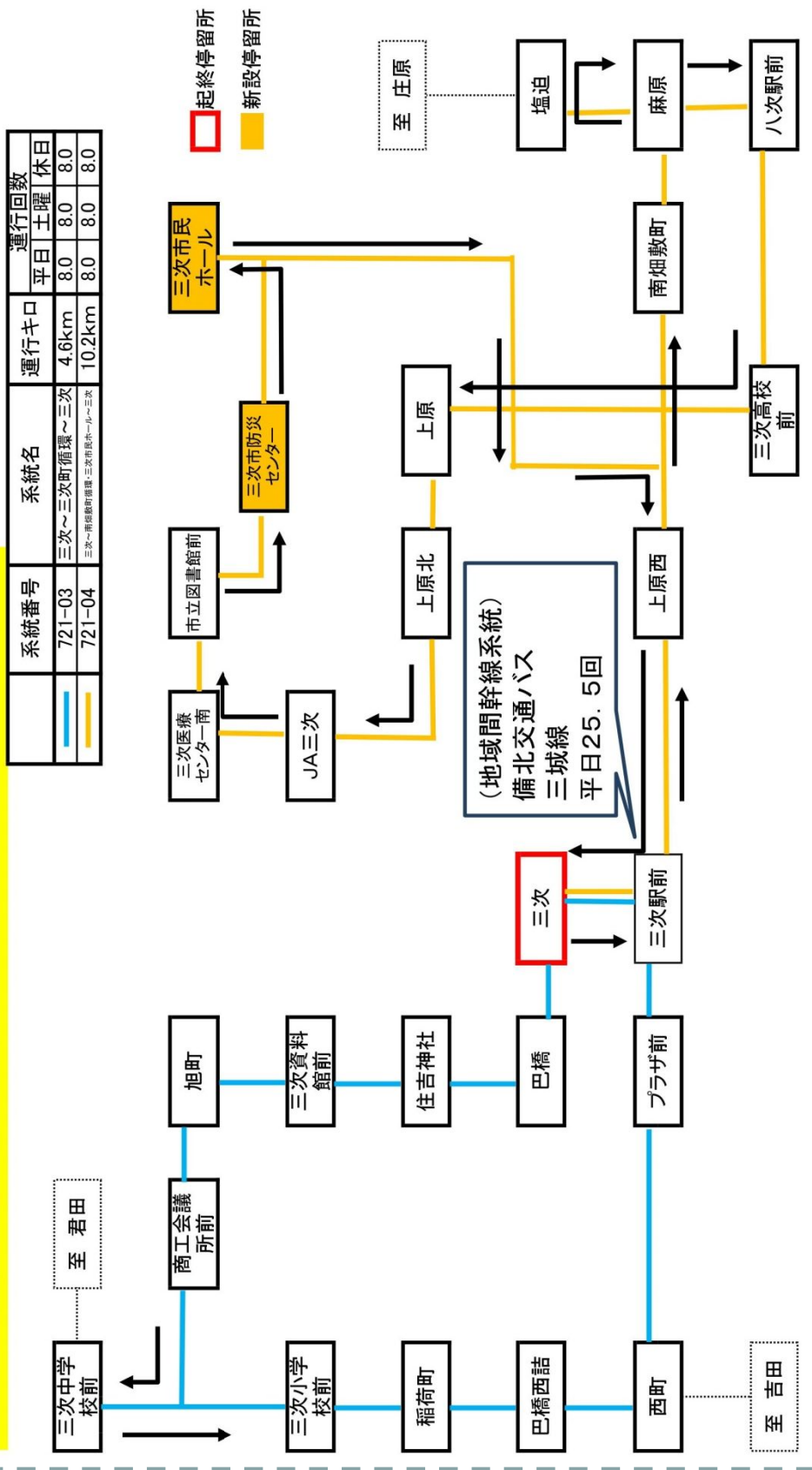
交通体系図 別紙



運行系統図 別紙

系統名 三次町循環，南畑敷町循環
 運行形態 4 条路線・乗合バス型（定期）
 運行日・便数 1/1, 1/2を除く毎日運行 一日8便
 運賃 一乗車200円（高校生まで100円）

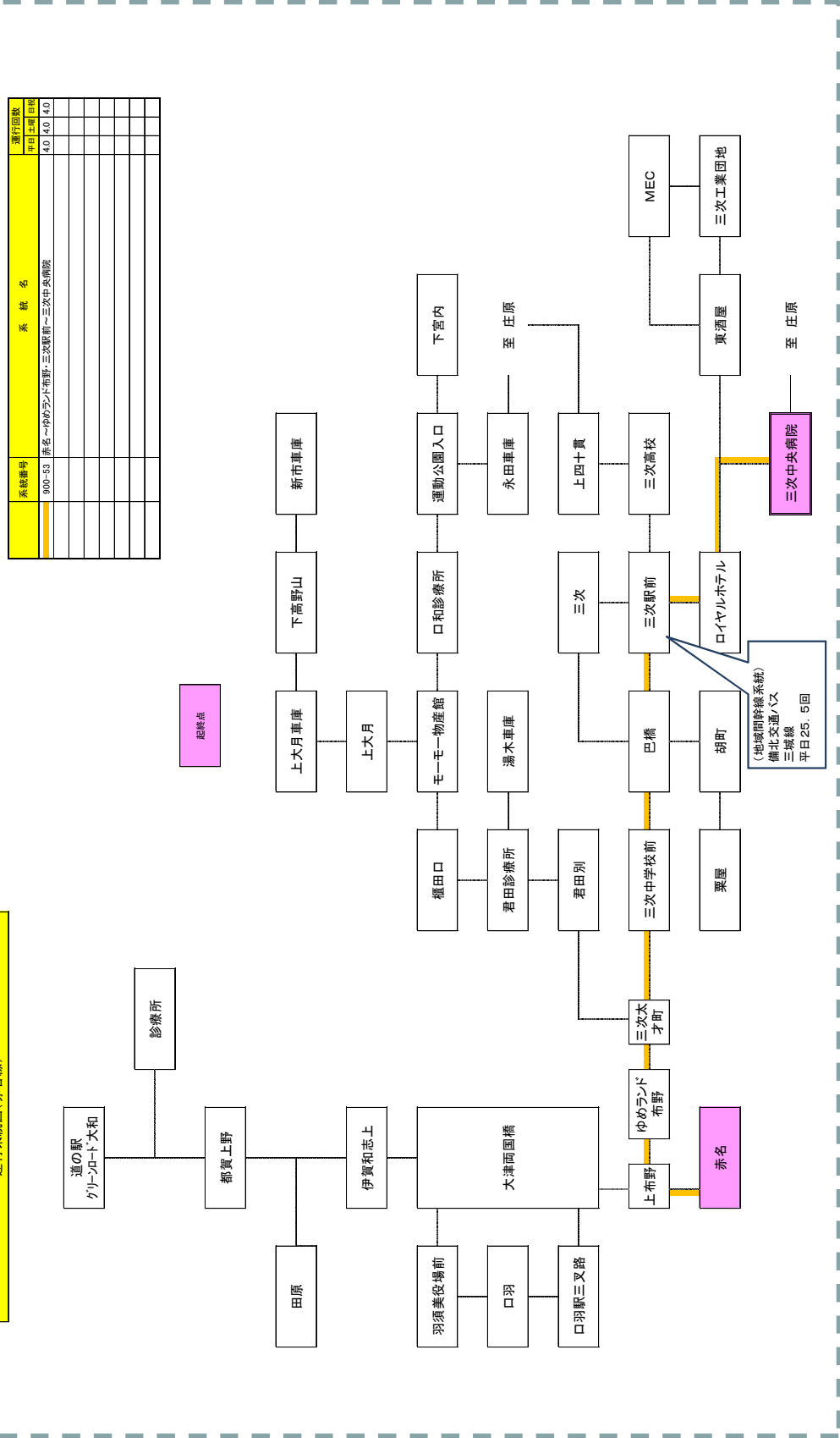
運行系統図(くるるん)H27.4.1現在



運行系統圖 別紙

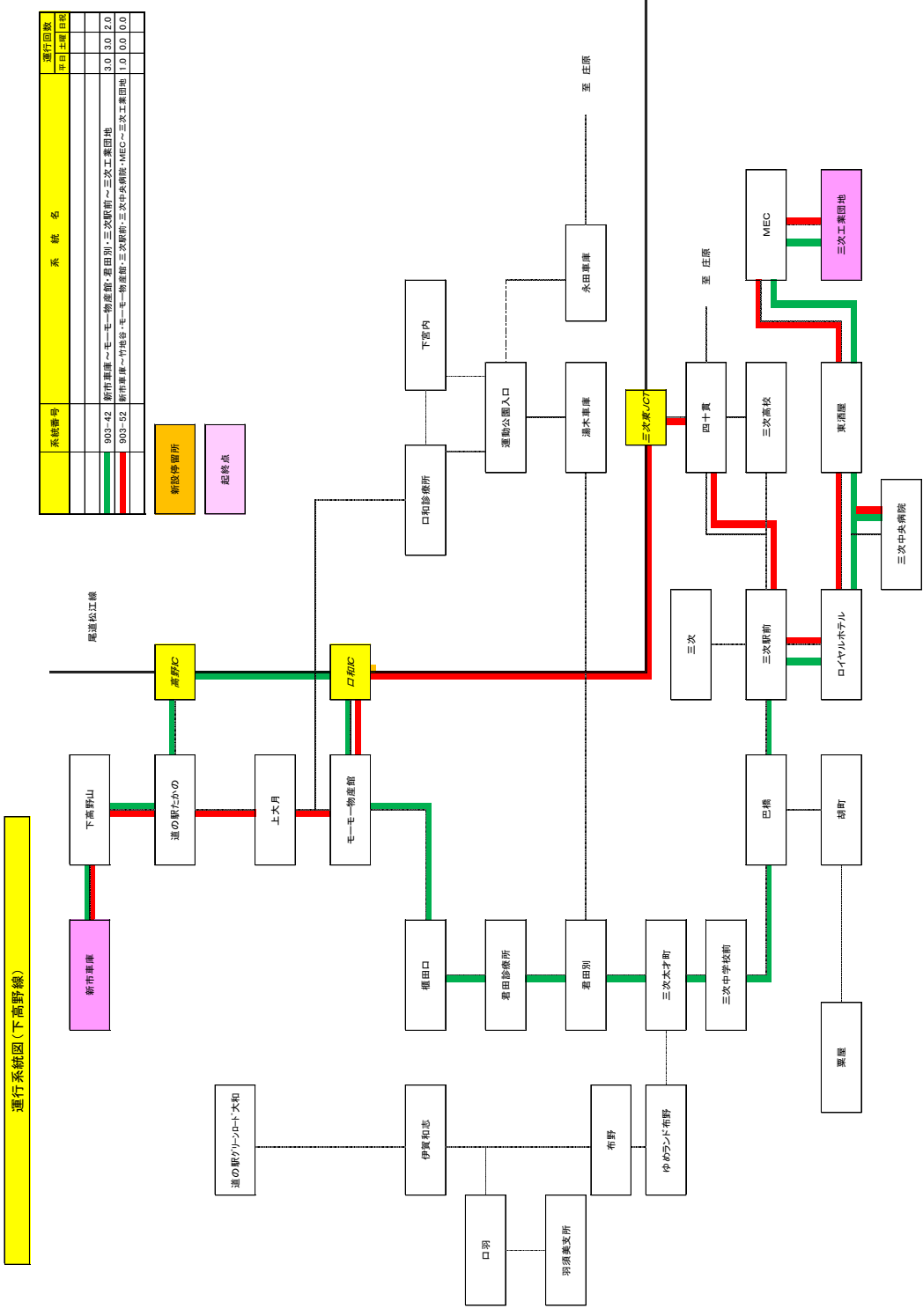
系統名	赤名線
運行形態	4 条路線，乗合バス型（定期）
運行日・便数	1/1, 1/2を除く毎日運行 一日 4 便
運賃	対キ口区間制（150円～1460円）

運行系統図(赤名線)



運行系統図 別紙

系統名 下高野線
運行形態 4 条路線・乗合バス型 (定期)
運行日・便数 2 系統 (君田町經由・口和町竹地谷經由) あり。君田町經由 3 便 (毎日運行 2 便, 月〜土運行 1 便), 竹地谷經由 1 便 (月〜金運行)
運賃 対キ口区間制 (160円〜1520円)



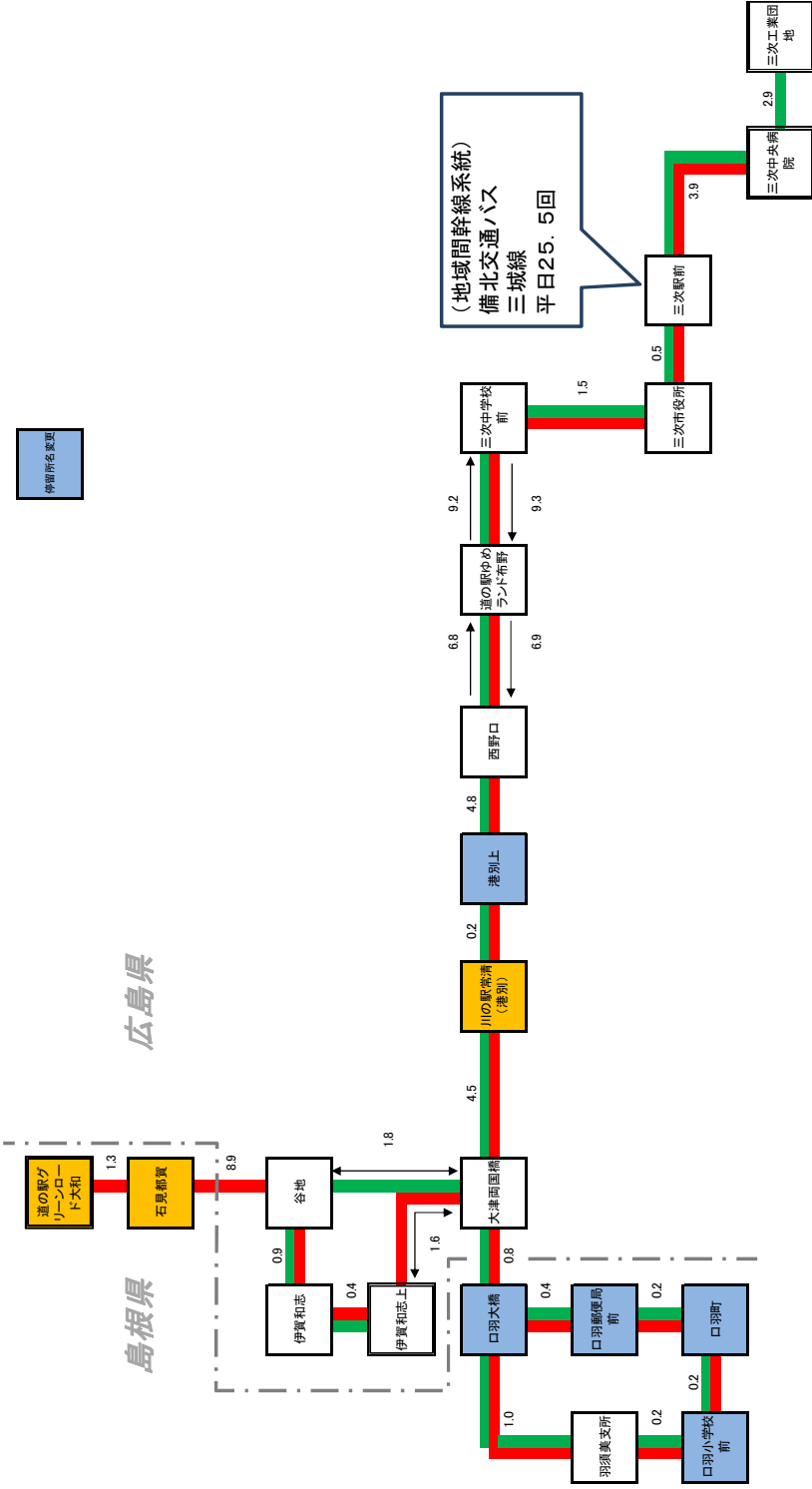
運行系統圖 別紙

系統名	作木線
運行形態	4 条路線・乗合バス型 (定期)
運行日・便数	2 系統 (道の駅GR大和起点・伊賀和志上起点) あり。道の駅グリンロード大和起点 2 便、伊賀和志上起点 3 便 (月～金は 1 便) ※1/1、1/2を除く
運賃	対キロ区間制 (150円～1280円)

運行系統圖（作木線） 平成30年4月1日現在

	系統番号	起点	経由地	終点	系統キロ 数	運行回数 平日 土曜 日祝
	900-32	伊賀和志上	谷地・羽須美支所・布野・三次駅前	三次工業園地	道里 41.0 距離 41.2	3.0 1.0 1.0
	900-42	道の駅クワートランド文相	伊賀和志・羽須美支所・布野・三次駅前	三次中央病院	道里 48.1 距離 48.3	2.0 2.0 2.0

※道の駅グリーンロード大和～西野口までフリー乗降区間



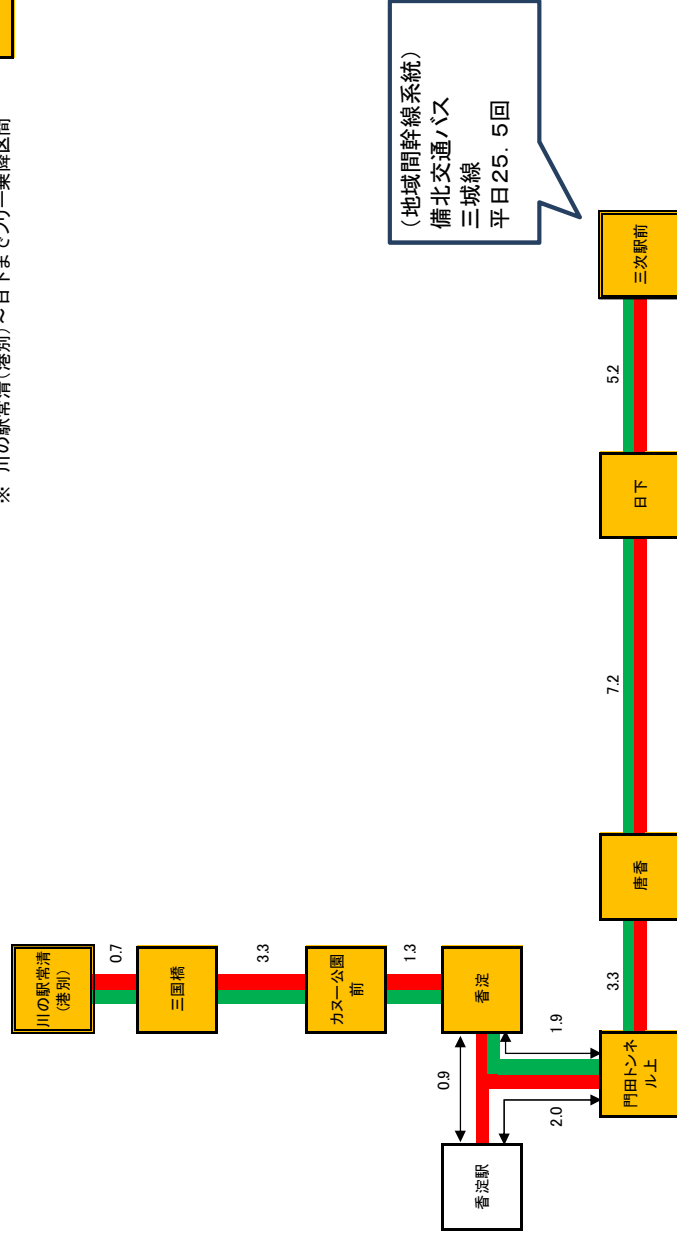
運行系統圖 別紙

系統名	川の駅三次線
運行形態	4 条路線，乗合バス型（定期）
運行日・便数	毎日運行，一日 5 便
運賃	対キロ区間制（160円～580円）

運行系統図 (川の駅三次線) 平成30年4月1日現在

	系統番号	起点	経由地	終点	系統キロ	運行回数		
						平日	土曜	日祝
	999-91	川の駅常清(港別)	香淀駅・(R375)	三次駅前	23.9	2.0	2.0	2.0
	999-92	川の駅常清(港別)	(R375)	三次駅前	22.9	3.0	3.0	3.0

※ 川の駅常清(港別)～日下までフリー乗降区間



運行系統圖 別紙

系統名 作木町上地区・中地区・下地区
運行形態 公共交通空白地有償運送・区域デマンド型
運行日・便数 (上地区) 月・金曜日 (中地区) 木・金曜日 (下地区) 火・木曜日 各日3便
運賃 一乗車300円

平成30年4月1日現在

作木町公共交通空白地有償運送

